

第23回（平成30年度第2回）
セーフコミュニティ 学校安全対策委員会

《会議次第》

日時：平成31年3月18日(月) 18:30～
場所：市役所3階 305会議室

1. 開会

2. 報告事項

(1) 今後の主なスケジュールについて

3. 協議事項

(1) 平成30年度の取り組み実績について

(2) 平成31年度取り組み方針（案）について

(3) 防犯の取組について

(4) 防災の取組について

①地震時の通学路の安全

②地域防災力の向上

(5) 広報啓発について

4. その他

5. 閉会

(資料1)

【セーフコミュニティ】年間スケジュール

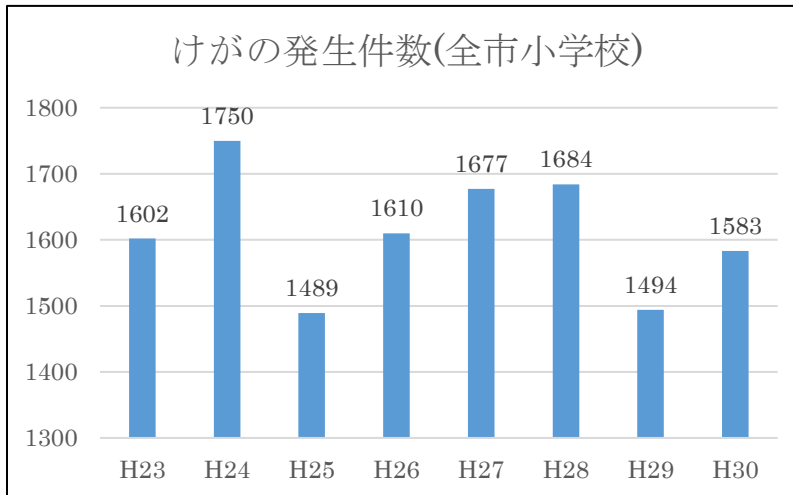
業 務	H30			H31										備考			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月	
SC推進協議会					←調整会議	←本部会議	←協議会				任期満了 11/8						
SC対策委員会	1/25 ● 事務局会議	←対策委員会					任期満了 7/31	←対策委員会(2回程度開催)									
外傷等動向 調査委員会		←外傷委員会						←外傷委員会(2回程度開催)									
SCフェスタ								←SCフェスタ									

国際認証第2期(2019~2023)の主な予定

- | | |
|-----------|--|
| 2019(H31) | ◎今後5年間の基本的な方針の決定
◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の概要検討と整理 |
| 2020(H32) | ◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の決定と実施、集計・分析 |
| 2021(H33) | ◎取り組みの骨格の検証と見直し
●重点取り組み分野と項目の見直し
●国際認証の再々取得の意思決定 |
| 2022(H34) | ◎国際認証の再々取得のための事前指導 |
| 2023(H35) | ◎国際認証の再々取得のための現地審査 |

重点取り組み項目	No	具体的施策名
学校の安全	3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施
	3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施
	3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施
	3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施
	3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施
	3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



※H30は2月末現在のけが件数。
H29は2月末現在で1327件だったことから、H30の3月末の件数はH29よりも少なくなる可能性が高いと考えられる。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

防犯の取組に対する学校・家庭・地域・関係機関の連携強化

本年度5月、新潟市において、下校中の児童が殺害されるという痛ましい事件が発生したことを受け、市内全小学校を対象に、通学路の防犯上の危険個所の緊急点検を実施した。まずは、各小学校区において、学校・家庭・地域が連携して危険個所の洗い出しを行っていただき、危険度が高いと学校が判断した箇所については、教育委員会、道路管理者、安全安心担当部局、警察で合同点検を行い、必要な対策についての協議を行った。

ウ. 2018年度の取り組みで最も成功した事例

災害時を想定した実践的な避難訓練の実施

学校で火災や地震が起きた時の避難の仕方について、実際の緊急時を想定した実践的な避難訓練を実施することにより、訓練に真剣に取り組む児童が増え、安全に関するアンケートでは、「災害時に落ち着いて避難することに自信がある」と答える児童が増加している。

エ. 2018年度で最も積極的に取り組んだ活動

いじめ防止強化月間の取組の強化

本年度は「久留米市いじめ防止基本方針」を改訂し、いじめの早期発見やきめ細やかな支援の取組強化を図った。10月には、いじめ防止強化月間を設定し、全小学校でいじめアンケートを実施し、気になる記述のある児童については個別の教育相談を実施した。また、保護者アンケートも実施し、いじめについて知り得ている情報の提供なども呼びかけた。これらの取組によって、いじめは「しない・させない・許さない」意識や態度が高まり、安全に関するアンケートでは、「いじめはいけないことが分かっている」「実際にいじめはしていない」と答える児童が増加している。

オ. 分野横断的に行っていること

学校安全の取組の検証・改善サイクルの確立

12月に、市内全小学校を対象に「安全に関するアンケート」を実施し、各学校の児童の校内安全、交通安全、防災、いじめ、防犯の意識や態度の変容を確認するとともに、その分析結果を各学校にフィードバックし、それをもとに次年度の取組の全体計画の改善を図るような仕組みづくりを進めている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の強化

市内児童の約60%は「校舎内で安全に過ごすためのルールは知っているし、実際に守ることができている」と答えているが、約40%の児童は「ルールは知ってはいるが守ることはできていない」と答えている。児童の委員会活動等を通して、児童の自主的・自治的な活動の推進を図る必要がある。

防犯教育や交通安全教育の強化

市内児童の約20%は「学校や家のまわりの交通安全上の危険箇所が分からない」、また約30%は「学校や家のまわりの防犯上の危険箇所が分からない」と答えている。児童自身が安全マップづくりを行ったり、学校やPTAが作成した校区の安全マップを使って地域の危険箇所や子供110番の家など確認したりする機会をつくる取組の推進を図る必要がある。

(資料3)

平成30年度 小学校安全アンケート（12月実施）の結果について

【対象】市内小学校児童7862名

【結果】左側の数値はH29の結果、右側の数値はH30の結果を表しています。

1 校舎の中で安全に過ごすためのルールを守っているか。（廊下の通り方など）

①学校内のルールは知っているし、守っている	58%	58%
②学校内のルールは知っているが、守ることはできていない	40%	40%
③学校内のルールが分からない	2%	2%

2 校舎の外で安全に過ごすためのルールを守っているか。

①外遊びのルールは知っているし、守っている	82%	84%
②外遊びのルールは知っているが、守ることはできていない	13%	11%
③外遊びのルールが分からない	5%	5%

3 「いじめは絶対にしてはいけない」ということを守っているか。

①いじめはいけないことは分かっているし、守っている	84%	87%
②いじめはいけないことを分かっているが、守れていない	15%	13%
③いじめはいけないことだと思わない	1%	0%

4 学校で火災や地震が起こった時の避難の仕方のキーワード「お・は・し・も」を言うことができるか。

①4つとも全部言える	84%	83%
②1～3つは言える	13%	14%
③分からない	3%	3%

5 避難訓練の時には、しゃべらず、落ち着いて、真剣に訓練を行うことができるか。

①できている	58%	59%
②どちらかといえばできている	33%	33%
③どちらかといえばできていない	7%	6%
④できていない	2%	2%

6 学校で火災や地震が起こった時、落ち着いて安全に避難できると思うか。

①できる自信がある	59%	59%
②どちらかといえば自信がある	29%	28%
③どちらかといえば自信がない	9%	9%
④自信がない	3%	4%

7 登下校の時や放課後遊びに行く時に、交通ルールを守っているか。

① 交通ルールは知っているし、守っている	86%	87%
② 交通ルールは知っているが、守ることはできていない	13%	11%
③ 交通ルールが分からない	1%	2%

8 学校や家の回りで、交通事故が起こる危険がある場所に気をつけているか。

① 危険な場所を知っているし、気をつけている	76%	74%
② 危険な場所を知っているが、気をつけてはいない	9%	8%
③ 危険な場所が分からない	15%	17%

9 不審者に会った時に気をつけるキーワード「いかのおすし」を言うことができるか。

① 5つとも全部言える	56%	59%
② 1～4つ言える	35%	34%
③ 分からない	9%	7%

10 学校外の場所で不審者に会った時に、落ち着いて安全な行動ができると思うか。

① できる自信がある	53%	42%
② どちらかといえば自信がある	29%	31%
③ どちらかといえば自信がない	12%	18%
④ 自信がない	6%	9%

11 学校や家の回りで、不審者に会える危険がある場所に気を付けているか。

① 危険な場所を知っているし、気を付けている	61%	58%
② 危険な場所を知っているが、気を付けてはいない	10%	10%
③ 危険な場所が分からない	29%	32%

【分析】

- 全体的に、どの項目も8割程度の児童が肯定的な回答をしている。
- 3「いじめは絶対にしてはいけないと分かっている」と答えた児童が増えている。
- 5「避難訓練を真剣に行うことができている」や6「学校で火災や地震が起こった時、落ち着いて安全に避難できると思う」と答えた児童は約9割と大変多い。
- 1「校舎内で安全に過ごすためのルールは知っているが守れていない」と答えた児童が4割と大変多い。
- 8「交通安全上の危険箇所」や11「防犯上の危険箇所」が分からないと答えた児童が若干増加している。
- 10「学校外の場所で不審者に会った時に、落ち着いて安全な行動ができる」と答えた児童が若干減っている。

【今後の取組の見直しの視点】※各学校の実態に応じて

- ・委員会活動などを通して、校舎内で安全に過ごすための、自主的・自治的な取組の推進を図る。
- ・交通安全教室や防犯教室などの健康・安全・体育的行事の中で、既存の校区安全マップを確認したり、児童主体で校区安全マップをつくるような学習を通して、児童が危険な場所を認識するような機会をつくる。

※当初、上津小学校をモデル校として取り組みを進め、現在は各学校の特性を活かしながら全校へ拡大しています。

【学校安全】 3-① 《学校内の安全指導》校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるほど、けがが多くなる傾向がある ・学校でのけがは、「休み時間」に最も多く発生し、校舎内では「教室」や「廊下」で起こるものが多い 					
	主観的課題	学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い					
目標	学校内・校舎内でのけがの件数の減少						
内容	各学校の上級生児童で組織する保健委員会や安全委員会による呼びかけ活動を行い、教室や廊下で安全に過ごす意識を高める						
対象者	児童						
実施者	児童、教職員						
対策委員会の関わり	取組に対する助言						
2018年度の実績及び改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、委員会、児童会を中心とした自治的な活動や、けがの多い場所や時間帯に対応する取組を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下の通り方や雨の日の過ごし方のめあての設定(42校) ・委員会児童による校内安全啓発ポスターや標語の掲示(37校) ・けがで保健室を利用した人数や場所をグラフ化し掲示(27校) ・全校朝会等でけがの件数の報告と安全啓発(26校) ・セーフコミュニティの日の掲示、校内放送(15校) <p>【本施策を重点取組とした学校 20校】</p>						
2019年度の方針及び課題等	<p>(課題)</p> <p>校舎内のルールは分かっているが守れていないという児童がまだ多い</p> <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがの多い場所や時間帯に対応する取組の強化 ・委員会・児童会を中心とした自主的・自治的な活動の強化 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	児童による主体的な取組及び実施回数【全小】	回	2017より全校へ拡大			1	1
【短期】認識・知識	校舎内のルールに対する理解 [各学校の校舎内の安全に関するアンケート集計]	%	2017より全校へ拡大			98	98
【中期】態度・行動	校舎内のルールを守る態度 [各学校の校舎内の安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			58	58
【長期】状況	校舎内でのけがの割合 (校舎内のけが件数/市内全児童数) [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	4.6	4.3	4.8	4.4	4.5

【学校安全】 3-② 《学校内の安全指導》校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるほど、けがが多くなる傾向がある ・学校でのけがは、「休み時間」に最も多く発生し、校舎外では「運動場」で起こるものが多い 					
	主観的課題	学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い					
目標	学校内・校舎外でのけがの件数の減少						
内容	各学校の上級生児童で組織する児童会が、代表委員会や全校児童集会等を活用した、自主的・自治的な活動を行い、運動場で安全に遊ぶ意識を高める						
対象者	児童						
実施者	児童、教職員						
対策委員会の関わり	取組に対する助言						
2018年度の実績 及び 改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、委員会、児童会を中心とした自治的な活動や、けがの多い場所や時間帯に対応する取組を実施した (取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で統一した外遊びのルールづくりと啓発活動 (39校) ・委員会から安全な遊びの紹介 (放送やVTR) (31校) ・委員会から運動場でのけが状況の変化を報告 (22校) <p>【本施策を重点取組とした学校 1校】</p>						
2019年度の方針 及び 課題等	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びのルールが守ることができる児童が増えてきている <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会・児童会を中心とした自主的・自治的な活動の更なる強化 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	児童による主体的な取組及び実施回数【全小】	回	2017より全校へ拡大			1	1
【短期】認識・知識	校舎外のルールが分かる児童の割合 [各学校の校舎外の安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			95	95
【中期】態度・行動	校舎外のルールを守る態度 [各学校の校舎外の安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			82	84
【長期】状況	校舎外でのけがの割合 (校舎外のけが件数/市内全児童数) [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	4.6	3.7	4.3	3.6	3.8

【学校安全】 3-③ 《学校内の安全指導》いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、いじめの認知件数は、年間 500～600 件程度発生している ・いじめに対して正しく認識できていない児童もいる 						
	主観的課題	いじめを受けた児童は、大人に相談することは少なく、周囲の友達やアンケート等で発覚することが多い						
目標	いじめ解消率の向上							
内容	人間関係調整力を育むソーシャルスキルトレーニングや、いじめを発見するための定期的なアンケート、教育相談など、いじめの芽を摘む積極的な取組により、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る							
対象者	児童							
実施者	教職員、関係機関							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
2018 年度の実績 及び 改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、いじめの芽をつむ積極的な未然防止の取組やいじめの態様に応じた取組、ネットいじめに対応する取組を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートの実施 (毎月) (46 校) ・いじめの認知や対応の仕方についての教職員研修の実施 (46 校) ・ネットいじめに関する親子学習会の実施 (14 校) <p>【本施策を重点取組とした学校 18 校】</p>							
2019 年度の方針 及び 課題等	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはしない、させない、許さない」という児童が増えてきている <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの芽を摘む積極的な取組の強化 ・いじめの早期発見・早期対応の取組の強化 							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	各学校の実態に応じた取組回数【全小】	回	2017 より全校へ拡大			1	1	
【短期】 認識・知識	いじめについての理解 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			99	100	
【中期】 態度・行動	いじめをしない態度 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			84	87	
【長期】 状況	いじめの解消率 [児童生徒の問題行動に関する月例調査]	%	93.7	90.9	88.5	82.6	-	

【学校安全】 3-④ 《学校内の安全指導》火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施

課題	客観的課題	小・中学校の安全教育の中で「防災意識を高めるための教育」に対する市民の期待が高い						
	主観的課題	近年、多発する地震や水害により、災害から身を守る安全教育の見直しを図る機運が高まっている						
目標	災害時の避難に不安を感じない児童の増加							
内容	実際の災害時を想定した、実践的な避難訓練などにより、万が一の災害時に落ち着いて安全に避難できる知識や態度の育成を図る							
対象者	児童							
実施者	教職員、関係機関							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
2018年度の実績及び改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、災害の際に自分の身を自分で守る意識を高めるための防災教育や、実際の災害時を想定した実践的な避難訓練を実施した</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震、風水害の避難訓練、下校訓練の実施 (46校) ・防災に関する学習の実施 (視聴覚教材の活用、防災センター等の体験活動) (46校) ・着衣水泳の実施 (46校) 							
2019年度の方針及び課題等	<p>(成果)</p> <p>避難訓練に真剣に参加することができる児童が増えている。</p> <p>(課題)</p> <p>地域の避難場所への認知度が低い。自治組織主催の避難訓練への子どもの参加が少ない</p> <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の災害時を想定した実践的な避難訓練の実施 ・災害やその避難に対する知識を養う防災教育の実施 ・学校と地域の防災訓練の合同開催についての協議 							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	各学年の取組及び実施回数	回				1	1	
【短期】認識・知識	災害時の避難の仕方についての理解 [各学校の防災に関するアンケート]	%				97	97	
【中期】態度・行動	災害時の避難の仕方を踏まえて避難訓練にのぞむ児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%				91	92	
【長期】状況	学校内での災害に不安を感じない児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%				88	87	

【学校安全】 3-⑤ 《登下校・放課後の安全指導》交通安全教育の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の交通事故は、朝の通学時や夕方の下校時の時間帯に多く発生している 低学年ほど歩行中の事故が多く、特に入学して間もない1年生が最も多い 					
	主観的課題	交通上の危険に対する予測が不十分なうえ、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方に慣れていない					
目標	登下校時・放課後など学校外でけがをする児童の割合の減少						
内容	地域や保護者、外部団体が参画した、実践的な交通安全教室の実施などにより、交通ルールについての理解や交通ルールを守ろうとする態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関						
対策委員会の関わり	交通安全教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)						
2018年度の実績及び改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、家庭や地域、外部団体と連携した、体験的な交通安全教室などの取組、自転車ヘルメット着用や自転車保険加入について啓発する取組などを行った (取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者や関係機関、地域団体と連携した交通教室の実施 (46校) 交通安全についての学習の実施 (46校) ヘルメット着用の啓発活動 (2校) 等 <p>【本施策を重点取組とした学校 2校】</p>						
2019年度の方針及び課題等	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通ルールを守ることができている児童が増えている <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域、外部団体と連携した、体験的な交通安全教室などの取組の強化 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	各学年の取組及び実施回数【全小】	回	2017より全校へ拡大			1	1
【短期】認識・知識	交通ルールに対する理解 [各学校の交通安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			99	98
【中期】態度・行動	交通ルールを守る態度 [各学校の交通安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			86	87
【長期】状況	学校外でのけがの割合 (学校外のけが件数/市内全児童数) [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	1.0	0.6	0.7	0.8	1.0

【学校安全】 3-⑥ 《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した交通指導の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の交通事故は、朝の通学時や夕方の下校時の時間帯に多く発生している 低学年ほど歩行中の事故が多く、特に入学して間もない1年生が最も多い 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 通学路には、交通量が多く歩道が狭いなど、事故の危険性が高い箇所がある 登下校時の事故や犯罪に不安を感じている児童や保護者は多く、子どもの安全を確保するためには、関係機関と地域や保護者が連携した取り組みが不可欠である 					
目標	登下校時・放課後など学校外でけがをする児童の割合の減少						
内容	地域の交通安全上の危険箇所や危険が多い時間帯に応じた交通指導や、地域組織やPTA組織が連携した交通指導の実施により、地域の交通安全上の危険を理解し、交通安全に気を付けて登下校する態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関						
対策委員会の関わり	交通指導の連携・調整						
2018年度の実績 及び 改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、危険箇所・時間帯に対応した交通指導などの取組や地域の危険箇所についての認知度を上げるための取組を実施した (取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員による朝の挨拶運動や朝の交通指導の実施 (46校) 危険箇所等におけるPTAや地域団体、青パトによる安全指導 (46校) 学校や地域が協働で安全マップを作成や配布 (33校) 						
2019年度の方針 及び 課題等	<p>(課題) 地域の交通安全上の危険箇所が分からない児童がまだ多い (方針) 地域の交通安全上の危険箇所についての認知度を高めるための取組の強化</p>						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	各学年の取組及び実施回数【全小】	回	2017より全校へ拡大			1	1
【短期】認識・知識	地域の交通安全上の危険箇所に対する理解 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			85	84
【中期】態度・行動	交通安全に気を付けて登下校する態度 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	2017より全校へ拡大			76	74
【長期】状況	学校外でのけがの割合 (学校外のけが件数/市内全児童数) [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	1.0	0.6	0.7	0.8	1.0

【学校安全】 3-⑦ 《登下校・放課後の安全指導》防犯教育の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある ・小・中学校での安全教育の中で、「不審者対応の仕方を身に付ける防犯教育」に対する市民の期待は高い 					
	主観的課題	防犯グッズの使用や「子ども 110 番の家」の活用など、不審者に遭遇した時に、適切に対応できる児童は少ない					
目標	登下校時に不安を感じない児童の割合の向上						
内容	実際に不審者に遭遇した時に咄嗟の対応ができるような実践的な防犯教室の実施により、不審者対応に対する理解や実際の対応に生かしていこうとする態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関						
対策委員会の関わり	防犯教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)						
2018 年度の実績 及び 改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、・家庭や地域、外部団体と連携した体験的な防犯教室などの取組を実施した (取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ等を取り入れた防犯教室の実施 (46 校) ・防犯についての指導の実施 (全校朝会や特別活動) (46 校) ・防犯のキーワード「いかのおすし」の校内掲示 (2 校) 						
2019 年度の方針 及び 課題等	<p>(課題) 登下校時に不審者に会った時に落ち着いて行動できる自信がない児童が増えている</p> <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯のキーワードに触れる機会の強化 ・体験的・実践的な防犯教室の実施 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	各学年の取組及び実施回数【全校】	回	2017 より全校へ拡大			1	1
【短期】認識・知識	不審者への対処法に対する理解 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			91	93
【中期】態度・行動	不審者への対処法を実践する態度 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			61	58
【長期】状況	登下校時に不安を感じない児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			82	73

【学校安全】 3-⑧ 《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

課題	客観的課題	不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯グッズの使用や「子ども 110 番の家」の活用など、不審者に遭遇した時に、適切に対応できる児童は少ない ・登下校時の事故や犯罪に不安を感じている児童や保護者は多く、子どもの安全を確保するためには、関係機関と地域や保護者が連携した取り組みが求められる 					
目標	登下校時に不安を感じない児童の割合の向上						
内容	地域や保護者と連携した校区の危険箇所探検や安全マップづくりなどの取組により、地域の防犯上の危険箇所への理解や不審者に気を付けて登下校する態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関						
対策委員会の関わり	防犯の取組の連絡・調整						
2018 年度の実績 及び 改善した点等	<p>各学校の実態に応じて、学校・地域・保護者が連携した防犯上の危険箇所に対する理解や実践的態度を高める取組を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校区安全マップ」を活用し、危険箇所に重点を置いた防犯パトロールの実施 (46 校) ・子ども 110 番の家の設置促進 (42 校) ・防犯に関する学習会の実施 (18 校) ・学校メールを活用した不審者情報の共有 (12 校) 						
2019 年度の方針 及び 課題等	<p>(課題)</p> <p>地域の防犯上の危険箇所が分からない児童がまだ多い</p> <p>(方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所や時間帯に対応した防犯指導の取組の強化 ・危険箇所マップの作成や配付などの取組の強化 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	各学年の取組及び実施回数【全校】 [上津小調査]	回	2017 より全校へ拡大			1	1
【短期】認識・知識	地域の防犯上の危険箇所に対する理解 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			71	68
【中期】態度・行動	不審者に気を付けて登下校する態度 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			61	58
【長期】状況	登下校時に不安を感じない児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%	2017 より全校へ拡大			82	73

具体的施策		2019年度取り組み方針
3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施	けがの多い場所や時間帯に対応する取組の強化 委員会・児童会を中心とした自主的・自治的な活動の強化
3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施	委員会・児童会を中心とした自主的・自治的な活動の更なる強化
3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施	いじめの芽を摘む積極的な取組の強化 いじめの早期発見・早期対応の取組の強化
3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	実際の災害時を想定した実践的な避難訓練の実施 災害やその避難に対する知識を養う防災教育の実施 学校と地域の防災訓練の合同開催についての協議
3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施	家庭や地域、外部団体と連携した、体験的な交通安全教室などの取組の強化 自転車ヘルメット着用や自転車保険加入について啓発する取組の強化
3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施	地域の交通安全上の危険箇所についての認知度を高めるための取組の強化
3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施	防犯のキーワードに触れる機会の強化 体験的・実践的な防犯教室の実施
3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施	危険箇所や時間帯に対応した防犯指導の取組の強化 危険箇所マップの作成や配付などの取組の強化

具体的施策		2019年度 各学校の主な取組計画
3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施	重点取組校 (20校) ○廊下の通り方や雨の日の過ごし方のめあての設定 (37校) ○委員会児童による校内安全啓発ポスターや標語の掲示 (31校) ○全校朝会等でけがの件数の報告と安全啓発 (24校) ○けがで保健室を利用した人数や場所をグラフ化し掲示 (19校) ○委員会児童による校内放送を使った呼びかけ活動、校内安全マップの作成やパトロールの実施 (32校) ○代表委員会で校内安全対策について話合う活動の実施 (6校) ○危険箇所に注意喚起の掲示 (4校) ○教職員による校内安全点検の実施 (3校) ○廊下を静かに歩く週間や運動の実施 (2校) 等

3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○学校で統一した外遊びのルールづくりと啓発活動（33校） ○委員会から安全な遊びの紹介（放送やVTR）（29校） ○全校朝会等で校舎外でのけが状況の変化を報告（21校） ○安全な遊び集会の実施（11校） ○委員会児童による校内放送を使った呼びかけ活動の実施（6校） ○校内安全点検の実施（6校）等
3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組校（16校） ○いじめに関するアンケートや教育相談の実施（46校） ○いじめの認知や対応の仕方についての教職員研修の実施（46校） ○ネットいじめについての学習の実施（12校） ○校内いじめ対策委員会の定期的な開催（8校） ○ネットいじめに関する親子学習会の実施（5校）等
3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組校（1校） ○火災や地震の避難訓練の実施（46校） ○防災に関する学習の実施（視聴覚教材の活用、防災センター等の体験活動）（46校） ○風水害や土砂災害に関する避難訓練の実施（9校） ○災害時の緊急連絡方法の確認や保護者引き渡し訓練の実施（5校） ○災害対応マニュアルの見直し（2校）等
3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組校（1校） ○PTA や関係機関、地域団体と連携した実践的な交通教室の実施（46校） ○交通安全についての学習の実施（46校） ○集団下校（※実施回数は各校毎に設定）の実施（46校） ○安全マップを活用して危険箇所の位置と通り方の確認（9校）等
3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組校（3校） ○危険箇所等に応じたPTA や地域団体、青パトによる安全指導（46校） ○教職員による朝の挨拶運動や朝の交通指導の実施（46校） ○学校とPTA や地域で協働して安全マップの作成、見直し（16校） ○PTA による危険箇所点検（7校）等
3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組校（2校） ○ロールプレイ等を取り入れた体験的な防犯教室の実施（46校） ○防犯についての指導の実施（全校朝会や特別活動）（46校） ○安全マップを活用して防犯上の危険箇所の確認（8校） ○防犯ブザーの点検（6校）等
3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組校（3校） ○危険箇所に重点を置いた、PTA や地域団体、青パトによるパトロールの実施（46校） ○子ども110番の家の設置促進（42校） ○防犯上の危険箇所マップの作成、見直し（21校） ○防犯に関する学習会の実施（14校）等 ○学校メールを活用した不審者情報の共有（10校） ○安全マップの全家庭配付（4校） ○地域で防犯安全に関する会議を定期的実施（2校）

地震時及び防犯の観点からの通学路等の危険箇所調査の結果について

今年度、大阪府北部を震源とする地震で登校中の児童が倒壊したブロック塀に巻き込まれて亡くなる事故及び新潟市で下校中の児童が殺害される事件が発生しました。

このことを受けて、国は、地震時と防犯の観点から通学路等の危険箇所の調査を行うよう各自治体に依頼したところです。

久留米市におきましても、各学校が主体となり、地震時及び防犯の観点から危険箇所を調査しました。

1 調査結果の概要

(1) 調査要領

地震時の観点では、危険なブロック塀、看板や屋根瓦、老朽化した空き家について、目視で調査しました。また、防犯の観点では、警察から提供された犯罪等発生状況等も参考に危険箇所を調査しました。

(2) 調査結果

地震時の観点	箇所数
総数	657
危険なブロック塀	542
看板や屋根瓦	54
老朽化した空き家	61

防犯の観点	箇所数
総数	131
合同点検箇所	24

(3) 危険箇所の判断基準

① 地震時

ブロック塀（傾きやひび割れなど）、看板や屋根瓦（建物との接合部が錆びについているかなど）、老朽空き家（傾きや落書きの有無など）

② 防犯

見守りの目が十分でない（家や店が近くにない、登下校時に人や車が通らない等）及び環境整備が十分でない（放置自転車や落書きが多い、竹やぶなどが生い茂っている等）こと

2 調査後の対応

- ① 危険箇所の結果をもとに、児童生徒等に対して危険箇所に近づかないなどの注意喚起・指導を行う。
- ② 地震時の調査結果は、都市建設部に情報提供した。
- ③ 防犯の調査結果は、関係機関による合同点検を速やかに行い、必要な対策の検討を進める。

登下校時における児童の安全確保に係る通学路等の調査

調 査 要 領

※本調査は、児童が通学に使う全ての道(校区内の通学路及び自宅までの経路)で、通学時間帯における防犯上の危険箇所を対象にしています。

ただし、学童保育所への来所・帰宅の際に通学路とは異なる経路を通る場合については、学童保育所の所管部局で別に把握することとなっているため、本調査の対象外とします。

【手順1】

学校が日頃から把握している防犯上の危険箇所の情報、警察から情報提供を受けた「犯罪等発生状況」「犯罪等発生マップ」、PTAや地域学校協議会との協議をもとに、防犯上の危険箇所と思われる場所をリストアップしてください。

【手順2】

手順1の情報を踏まえながら校区内を巡回し、下記の「危険箇所の判断のポイント」に示すような状況が顕著にみられる箇所については、危険箇所位置図(ゼンリン地図)に①②のいずれかの番号を記載し、写真を撮ってください。

【手順3】

手順2の危険箇所位置図や写真をもとに、別紙1の総括表、別紙2の個票を作成してください。

《危険箇所の判断のポイント》

①見守りの目が十分ではない。

- (ア)家や店が近くにない。
- (イ)登下校時間帯(朝8時頃、夕方17時頃)に人や車が通らない。
- (ウ)見通しを妨げる大木、住宅等の困障、駐車した車が多い。
- (エ)子ども110番の家が近くにない。
- (オ)防犯カメラが近くにない。
- (カ)PTAや地域の見守り活動が行われていない。

②環境整備が十分ではない。

- (ア)放置された落書きや自転車がが多いなど、管理が行き届いていない。
- (イ)歩車道の区別がなく、車やバイクが歩行者に近づきやすい。
- (ウ)老朽空き家や手入れがされていない空き地が放置されている。
- (エ)人を連れ込みやすい集客施設や公衆トイレがある。
- (オ)竹やぶや林が生い茂っている。
- (カ)近くに街灯や建物がなく、下校時間帯には薄暗くなる。
(特に冬場は17時頃には真っ暗になる。)

子供110番の家に関する実態調査の結果について

本年度5月、新潟市で下校中の児童が殺害される痛ましい事件が発生したことを受け、平成30年6月22日付けで文部科学省が「登下校防犯プラン」をとりまとめました。その中で、登下校時における児童生徒等の安全を確保するための防犯対策の一つとして、『多様な担い手による見守りを活性化するための「子供110番の家・車への支援等」』があげられています。

そこで、各学校における「子供110番の家」の実態把握のために、本調査を実施いたしました。

1 調査結果の概要

(1) 調査要領

「子供110番の家」の実施主体は、「学校」「PTA」「地域」のいずれか、または合同実施が想定されたことから、実施主体が学校以外の場合は、当該団体に聞き取りの上で回答していただきました。

(2) 調査結果

子供110番の家について

項目	数
① 校区に子供110番の家がある。	45校
件数(総数)	4240件
② 定期的に活動確認ができています。	32校
③ 定期的に張り替えステッカーを配付している。	35校
④ 児童へ子供110番の家の場所が周知できている。	37校

2 調査後の対応についてお願い

① について

- ・各校区の防犯上の危険箇所においては、子供110番の家の設置が促進されるよう、実施主体に働きかけをお願いいたします。

② について

- ・子供110番の家のステッカーが貼られている家が、実際に活動を行っているか定期的に点検するよう、実施主体に働きかけをお願いいたします。

④ について

- ・集団下校や防犯教室などの機会を活用したり、各学校で作成している安全マップに子供110番の家を落とし込んで配付したりするなど、子供110番の家がある場所を児童に周知してください。

地震時における通学路の安全に関する調査

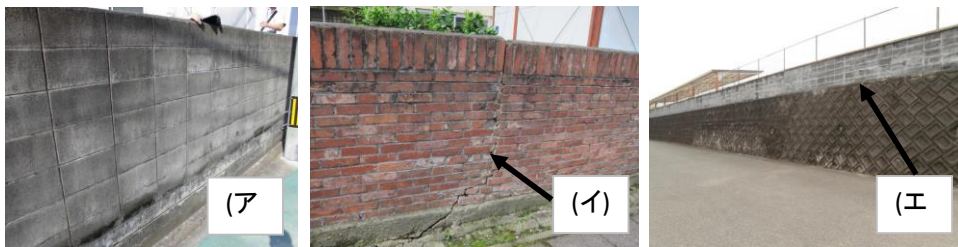
調査要領

- (手順1)
 通学路を巡回し、「①ブロック塀(レンガ塀を含む)」「②看板や屋根瓦」「③老朽空き家」の中で、下に示す基準にあてはまる箇所を、各校の通学路図、ゼンリン地図に①～③、(ア)～(エ)の番号で記載してください。(記載の仕方については、別紙の地図例を参照)
- (手順2)
 危険箇所を記載した地図をもとに、危険箇所の数を①～③毎に様式1に記載してください。同一箇所①～③の複数に該当する場合は、それぞれカウントしてください。その他、気になる状況があった場合は様式1の予定の欄に記述してください。

危険かどうかの判断基準

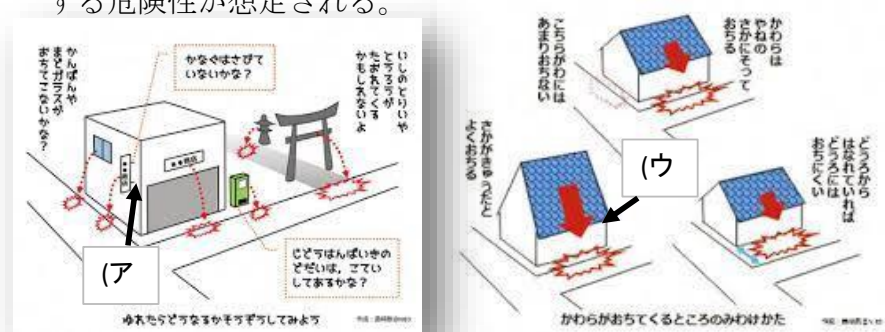
①ブロック塀

- (ア) ブロック塀が傾いていることが目視で分かる。
- (イ) ブロック塀に大きなひびが入っていることが目視で分かる。
- (ウ) ブロックが7段以上積まれている。
- (エ) 石垣やコンクリート塀の上にブロックが積まれている。



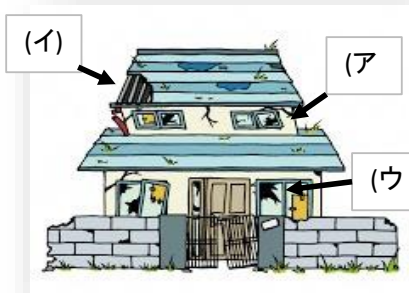
②看板や屋根瓦

- (ア) 看板と支えの接合部分が完全にさびついている。
- (イ) 看板と支えの接合部分が一部取れている。
- (ウ) 民家の屋根が通学路にせり出している。
- (エ) 通学路脇の民家の屋根瓦が一部浮いたり、ずれたりしていて、落下する危険性が想定される。



③老朽空き家

- (ア) 空き家が老朽化して傾いていることが目視で分かる。
- (イ) 空き家が老朽化して屋根や壁に大きな穴が開いている。
- (ウ) 老朽化した空き家の窓や玄関のガラスが複数枚割れている。



※上記の判断基準のうち、いずれか1つでもあてはまる場合は、危険箇所として数えてください。

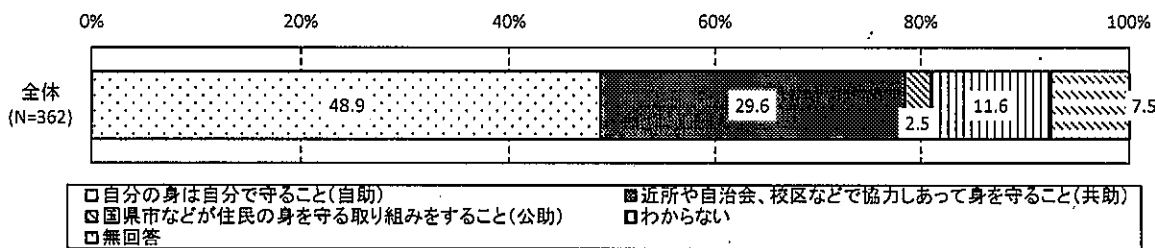
※あくまでも、調査者の目視による判断で結構です。

(40) 自然災害から身を守るために重要だと思うこと (小学1年生以上)

問 22. お子さんは、自然災害から身を守るために一番重要なものは何だと思っ
ていますか。(〇はひとつ)

自然災害から身を守るためには、『自分の身は自分で守ること』と考えている子どもが約5割

● 自然災害から身を守るために重要だと思うことについて、「自分の身は自分で守ること」が48.9%で最も高く、次に「近所や自治会、校区などで協力し合って身を守ること」が29.6%と続いている。



【属性別特徴】

- 男性・中学生 (13~17歳) では、「自分の身は自分で守ること」の割合が高い。
- 女性・小学生 (6~13歳) では、「近所や自治会、校区などで協力し合って身を守ること」の割合が高い。
- 中央南部では、「自分の身は自分で守ること」の割合が高い。
- 南東部では、「近所や自治会、校区などで協力し合って身を守ること」の割合が高い。

◆ 表 性別・年代別 ◆

		サンプル数	(自助) 自分の身は自分で守ること	(共助) 近所や自治会、校区などで協力しあって身を守ること	(公助) 国果市などが住民の身を守る取り組みをすること	わからない	無回答
上段:実数、下段:%							
全体		362	177	107	9	42	27
		100.0	48.9	29.6	2.5	11.6	7.5
性別	男性	186	93	52	4	22	15
		100.0	50.0	28.0	2.2	11.8	8.1
	女性	171	82	53	5	19	12
		100.0	48.0	31.0	2.9	11.1	7.0
	回答しない	1	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
小学生 (6~13歳)	男性	102	44	35	1	14	8
		100.0	43.1	34.3	1.0	13.7	7.8
	女性	98	44	35	2	8	9
		100.0	44.9	35.7	2.0	8.2	9.2
中学生 (13~17歳)	男性	84	49	17	3	8	7
		100.0	58.3	20.2	3.6	9.5	8.3
	女性	73	38	18	3	11	3
		100.0	52.1	24.7	4.1	15.1	4.1

◆ 表 居住校区别 ◆

		サンプル数	(自助) 自分の身は自分で守ること	(共助) 近所や自治会、校区などで協力しあって身を守ること	(公助) 国果市などが住民の身を守る取り組みをすること	わからない	無回答
上段:実数、下段:%							
全体		362	177	107	9	42	27
		100.0	48.9	29.6	2.5	11.6	7.5
居住校区	東部A	18	10	5	0	2	1
		100.0	55.6	27.8	0.0	11.1	5.6
	東部B	18	9	5	0	2	2
		100.0	50.0	27.8	0.0	11.1	11.1
	北部A	31	13	8	4	2	4
		100.0	41.9	25.8	12.9	6.5	12.9
	北部B	17	6	6	0	3	2
		100.0	35.3	35.3	0.0	17.6	11.8
	中央東部	51	28	12	1	7	3
		100.0	54.9	23.5	2.0	13.7	5.9
	南東部	35	12	17	1	3	2
		100.0	34.3	48.6	2.9	8.6	5.7
	中央部	54	27	14	2	7	4
	100.0	50.0	25.9	3.7	13.0	7.4	
中央南部	55	33	12	1	8	2	
	100.0	58.9	21.4	1.8	14.3	3.6	
南西部	38	17	14	0	5	2	
	100.0	44.7	36.8	0.0	13.2	5.3	
西部A	18	10	7	0	0	1	
	100.0	55.6	38.9	0.0	0.0	5.6	
西部B	24	10	7	0	3	4	
	100.0	41.7	29.2	0.0	12.5	16.7	

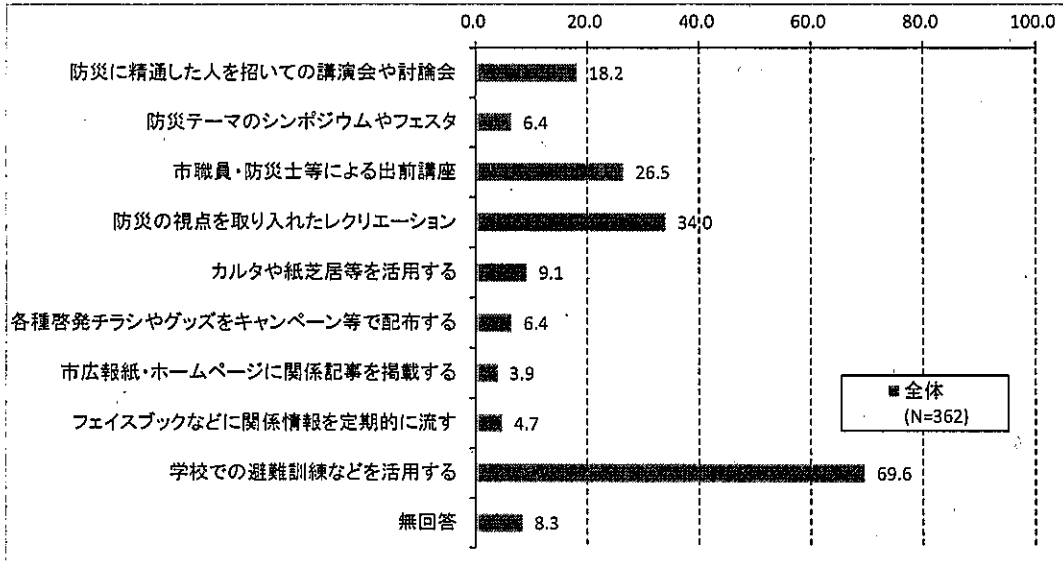
9 「地域防災力の向上」について

(41) 「自助」の重要性を教えるために重要だと思うこと（小学1年生以上）

問 23. あなたは、お子さんに「自助」の重要性を教えるために、何が有効だと思いますか。（あてはまるもの2つに○）

「自助」の教育について、『学校での避難訓練などの活用』が有効であるとする保護者が約7割

● 「自助」の重要性を教えるために重要だと思うことについて、「学校での避難訓練などの活用」が69.6%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

● 男性・30代では、「市職員・消防士等による出前講座」の割合が高い。

◆ 表 性別・年代別 ◆

		サンプル数	防災に精通した人を招いての講演会や討論会	防災テーマのシンポジウムやフェスタ	市職員・防災士等による出前講座	防災の視点を取り入れたレクリエーション	カルタや紙芝居等を活用する	各種啓発チラシやグッズをキャンペーン等で配布する	市広報紙・ホームページに関係記事を掲載する	フェイスブックなどに関係情報を定期的に流す	学校での避難訓練などを活用する	無回答	
上段:実数, 下段:%													
全体		362	66	23	96	123	33	23	14	17	252	30	
		100.0	18.2	6.4	26.5	34.0	9.1	6.4	3.9	4.7	69.6	8.3	
性別	男性	186	35	13	54	57	18	13	8	9	125	16	
		100.0	18.8	7.0	29.0	30.6	9.7	7.0	4.3	4.8	67.2	8.6	
	女性	171	28	10	42	65	15	10	6	8	122	14	
		100.0	16.4	5.8	24.6	38.0	8.8	5.8	3.5	4.7	71.3	8.2	
	回答しない	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・学年別	小学生 (6~13歳)	男性	102	18	6	33	36	15	4	1	1	72	8
			100.0	17.6	5.9	32.4	35.3	14.7	3.9	1.0	1.0	70.6	7.8
	女性	98	7	4	28	39	13	3	1	3	72	10	
		100.0	7.1	4.1	28.6	39.8	13.3	3.1	1.0	3.1	73.5	10.2	
中高生 (13~17歳)	男性	84	17	7	21	21	3	9	7	8	53	8	
		100.0	20.2	8.3	25.0	25.0	3.6	10.7	8.3	9.5	63.1	9.5	
女性	73	21	6	14	26	2	7	5	5	50	4		
		100.0	28.8	8.2	19.2	35.6	2.7	9.6	6.8	6.8	68.5	5.5	

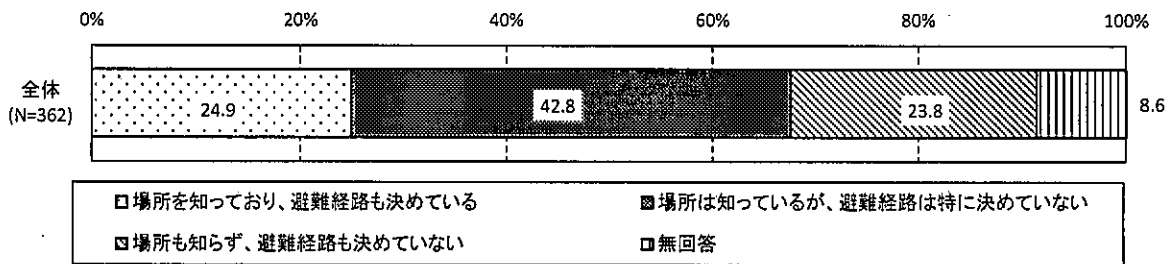
9 「地域防災力の向上」について

(42) 子どもの地域の避難所の認知度 (小学1年生以上)

問 24. お子さんは、地域の避難所を知っていますか。(〇はひとつ)

地域の避難所の『場所も知らない』子どもは2割以上

●子どもの地域の避難所の認知度について、「場所は知っているが、避難経路は特に決めていない」が42.8%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 小学生(6~13歳)では、「場所も知らず、避難経路も決めていない」の割合が高い。
- 男性・中学生(13~17歳)では、「場所を知っており、避難経路も決めている」割合が高い。
- 中央東部、南西部では、「場所は知っているが、避難経路は特に決めていない」の割合が高い。
- 南東部では、「場所も知らず、避難経路も決めていない」の割合が高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	場所を知っており、避難経路も決めている	場所は知っているが、避難経路は特に決めていない	場所も知らず、避難経路も決めていない	無回答	
		上段:実数, 下段:%					
全体		362	90	155	86	31	
		100.0	24.9	42.8	23.8	8.6	
性別	男性	186	43	80	46	17	
		100.0	23.1	43.0	24.7	9.1	
	女性	171	45	74	38	14	
		100.0	26.3	43.3	22.2	8.2	
	回答しない	1	0	0	1	0	
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・学年別	小学生(6~13歳)	男性	102	16	44	32	10
			100.0	15.7	43.1	31.4	9.8
	女性	98	25	36	29	8	
		100.0	25.5	36.7	29.6	8.2	
中学生(13~17歳)	男性	84	27	36	14	7	
		100.0	32.1	42.9	16.7	8.3	
	女性	73	20	38	9	6	
		100.0	27.4	52.1	12.3	8.2	

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	場所を知っており、避難経路も決めている	場所は知っているが、避難経路は特に決めていない	場所も知らず、避難経路も決めていない	無回答
		上段:実数, 下段:%				
全体		362	90	155	86	31
		100.0	24.9	42.8	23.8	8.6
居住校区	東部A	18	4	8	5	1
		100.0	22.2	44.4	27.8	5.6
	東部B	18	6	6	4	2
		100.0	33.3	33.3	22.2	11.1
	北部A	31	8	12	6	5
		100.0	25.8	38.7	19.4	16.1
	北部B	17	6	7	3	1
		100.0	35.3	41.2	17.6	5.9
	中央東部	51	13	26	9	3
		100.0	25.5	51.0	17.6	5.9
	南東部	35	7	14	11	3
		100.0	20.0	40.0	31.4	8.6
	中央部	54	17	22	12	3
	100.0	31.5	40.7	22.2	5.6	
中央南部	56	13	22	16	5	
	100.0	23.2	39.3	28.6	8.9	
南西部	38	9	20	8	1	
	100.0	23.7	52.6	21.1	2.6	
西部A	18	4	8	5	1	
	100.0	22.2	44.4	27.8	5.6	
西部B	24	3	10	5	6	
	100.0	12.5	41.7	20.8	25.0	

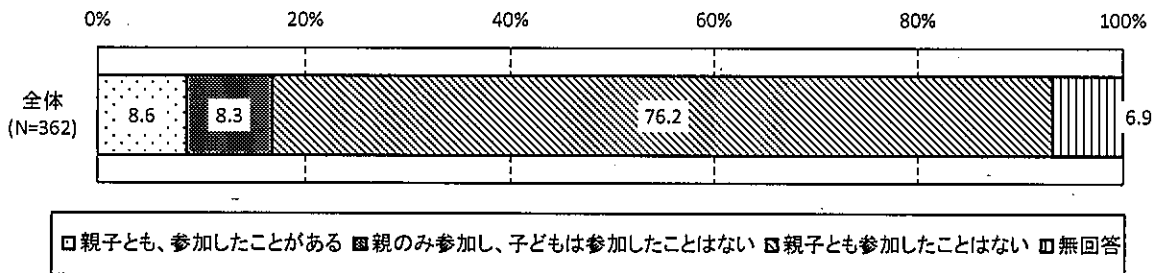
(43) 自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等の参加状況 (小学1年生以上)

問 25. 自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等に、参加したことがありますか。

(○はひとつ)

自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等には『親子共に参加したことがない』人が7割以上

●自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等の参加状況について、「親子共に参加したことがない」が76.2%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

●男性・30代、男性・50代以上では、「親子とも参加したことはない」の割合が高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	ある親子とも参加したことが	親のみ参加し、子どもは参加したことはない	親のみ参加したことはない	無回答	
上段:実数, 下段:%							
全体		362 100.0	31 8.6	30 8.3	276 76.2	25 6.9	
性別	男性	186 100.0	13 7.0	18 9.7	141 75.8	14 7.5	
	女性	171 100.0	17 9.9	11 6.4	132 77.2	11 6.4	
	回答しない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
性・学年別	小学生 (6~13歳)	男性	102 100.0	9 8.8	10 9.8	75 73.5	8 7.8
		女性	88 100.0	9 9.2	6 6.1	75 76.5	8 8.2
	中高生 (13~17歳)	男性	84 100.0	4 4.8	8 9.5	66 78.6	6 7.1
		女性	73 100.0	8 11.0	5 6.8	57 78.1	3 4.1

◆表 自治会の加入状況別◆

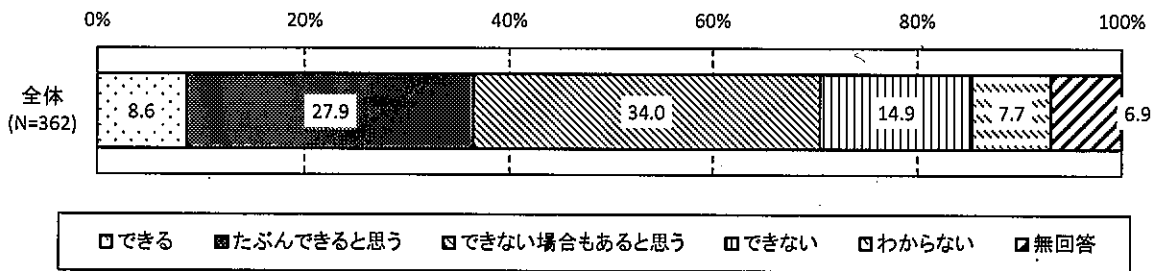
		サンプル数	ある親子とも参加したことが	親のみ参加し、子どもは参加したことはない	親のみ参加したことはない	無回答
上段:実数, 下段:%						
全体		362 100.0	31 8.6	30 8.3	276 76.2	25 6.9
自治会の加入状況	加入している	324 100.0	29 9.0	27 8.3	243 75.0	25 7.7
	加入していない	28 100.0	2 7.1	3 10.7	23 82.1	0 0.0
	わからない	10 100.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0

(44)災害が発生したときのひとりで避難できるか (小学1年生以上)

問 26. お子さんは、災害が発生したときに、ひとりで避難できると思いますか。(○はひとつ)

約5割の保護者が、災害時に子どもが1人で『避難できない』『できない場合がある』と考えている

●災害が発生したときのひとりで避難できるかについて、「できない場合もあると思う」が34.0%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 小学生 (6~13歳) では、「できない」の割合が高い。
- 中学生 (13~17歳) では、「たぶんでできると思う」の割合が高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	できる	たぶんでできると思う	できない場合もあると思う	できない	わからない	無回答	
上段: 実数、下段: %									
全体		362	31	101	123	54	28	25	
		100.0	8.6	27.9	34.0	14.9	7.7	6.9	
性別	男性	186	18	55	57	27	16	13	
		100.0	9.7	29.6	30.6	14.5	8.6	7.0	
	女性	171	12	45	64	26	12	12	
		100.0	7.0	26.3	37.4	15.2	7.0	7.0	
	回答しない	1	0	0	0	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
年代別	小学生 (6~13歳)	男性	102	3	21	36	22	13	7
			100.0	2.9	20.6	35.3	21.6	12.7	6.9
	女性	98	2	17	42	21	7	9	
		100.0	2.0	17.3	42.9	21.4	7.1	9.2	
中高生 (13~17歳)	男性	84	15	34	21	5	3	6	
		100.0	17.9	40.5	25.0	6.0	3.6	7.1	
女性	73	10	28	22	5	5	3		
	100.0	13.7	38.4	30.1	6.8	6.8	4.1		

広報啓発について

① 平成29年度広報啓発活動の実績

- セーフコミュニティ標語の募集（798作品の応募）
- セーフコミュニティフェスタの開催（台風接近のため中止）
- 広報くるめの掲載（計6回）
- 出前講座の開催（2回計50名）
- 毎月21日重点取り組みの推進
 - ・子どもの見守り活動、児童による朝の校内放送
 - ・田主丸有線放送、庁内放送、のぼり旗の設置
 - ・防災ラジオ自動起動放送
 - ・全校区防災情報伝達訓練（6月／12月）
 - ・青パトによる合同パトロールの実施（7月／12月／3月）
 - ・SC通信の発行（1,000名送信）
- セーフコミュニティオリジナル「くるっぱ反射材」の配付
- ロールスクリーンの設置
- キラリ補助金活用団体への周知と毎月21日の活動依頼
- JR久留米駅ほとめき広場でのパネル展示
- 他自治体（議会）からの行政視察対応（9回計45名）
- ドリームスFM「ほとめき街道ちっこ」への出演
- 日めくりカレンダーの配付（1,000部）
 - ・市役所全課／小中学校／学童保育所／警察署（交番）／久留米広域消防本部（消防署）
- ゲートキーパー啓発しおりの作成（SC実態調査結果を受けて）



（久留米市交通安全協会作成）
SCロゴ入りのランドセルカバー



（大善寺まちづくり振興会・交通安全協会大善事支部作成）
SCロゴ入りチラシ

② 平成30年度広報啓発活動の方針

- セーフコミュニティ標語の募集（5月21日～8月31日）
- 広報くるめへの関連記事掲載（再認証に向けてこれまでの取り組み成果を紹介）
- 出前講座の実施（対象者の年齢に応じて内容を見直す）
- チラシ・パンフレットの作成
- 日めくりカレンダーの配付（企業や医療機関など配布先の新規開拓）
- セーフコミュニティフェスタの開催（12月8日）
- 地域・関係団体・企業と連携した啓発物の作成・配付



（自殺予防対策委員会作成）
ゲートキーパー啓発しおり



相談窓口一覧を掲載した日めくりカレンダー



がっこう
学校のいきかえりで地震がおきたら、
 じしん
こんな場所^{ほしよ}に気^きをつけよう！



平成30年10月3日 久留米市教育委員会

★へいがたおれてくるかも！★

かたむいている

ひびわれがある

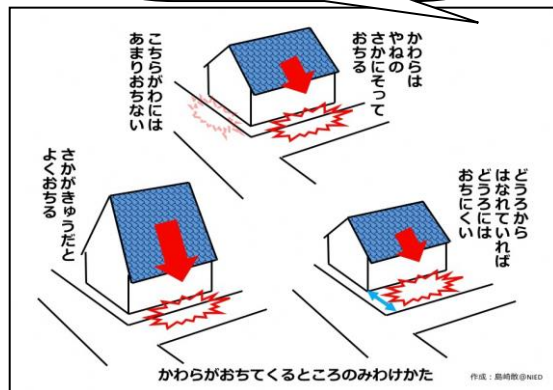
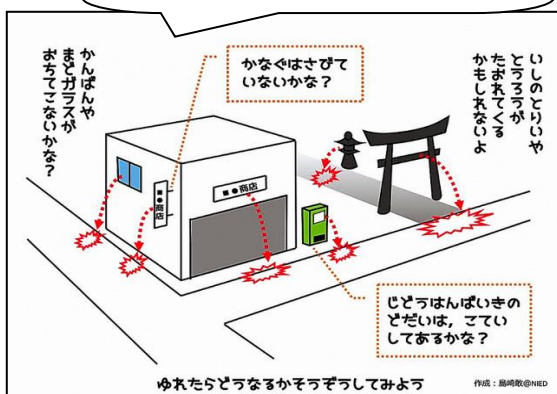
高いところにある



★ものがおちてくるかも！★

かんぱんやガラス、^{おも}重たいもの

おうちの^{やね}屋根やかわら



ふるひと
 ★古くて人がすんでいない

★おうちがたおれてくるかも！★

かたむいている

ガラスがわれている



ひごろからきけんな場所^{ほしよ}をチェック
 して気^きをつけて通り^{とお}ましょう。